

コスモシアター



コスモシアターでは、プラネタリウムのドームスクリーンで宇宙開発や科学技術などをテーマにした番組を上映しています。ドーム映像ならではの臨場感と迫力を体感してください。

【上映時間】

平日	10時	11時	—	13時	14時	15時	—
土日祝日	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時

※上映開始時間の5分前までに受付をお済ませください。

宇宙グッズのお店



コスモアイル羽咋1階の売店では、宇宙に関連した商品を取りそろえています。一番人気の宇宙食をはじめ、ここでしか手に入らない宇宙人グッズも。



コスモアイル羽咋 オンラインショップ
<https://cosmoisle.theshop.jp/>

宇宙人サンダーくん

宇宙船が壊れてしまい、母星に帰れなくなってしまった不運な宇宙人。宇宙船を修理するお金をためるため、コスモアイル羽咋でアルバイトをしながら生活している。地球での生活も慣れてきており、フェイスブックなどのSNSも使いこなすほど。



SETI&UFOsブース (宇宙科学展示室内)

SETIブース (地球外生命探査)

このブースでは、地球外生命探査 (SETI) の活動に関わる科学者の調査結果や、その活動の意義が紹介されます。

UFOsブース (未確認飛行物体)

このブースでは、UFO現象の探査に関わる科学者の研究成果が紹介されます。否定的な見解や、肯定的な見解も含めて聞くことができます。



入場料

	宇宙科学展示室	コスモシアター	宇宙科学展示室 + コスモシアター
大人 (高校生以上)	500円	500円	900円
小人 (小中学生)	250円	300円	450円

未就学児は無料です。

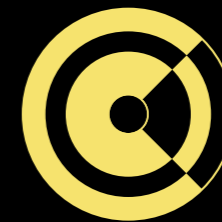
開館時間

8:30 ~ 17:00 (最終入場 16:30)

休館日

毎週火曜日 (祝日の場合は翌平日)

アクセスマップ



宇宙科学博物館 コスモアイル羽咋



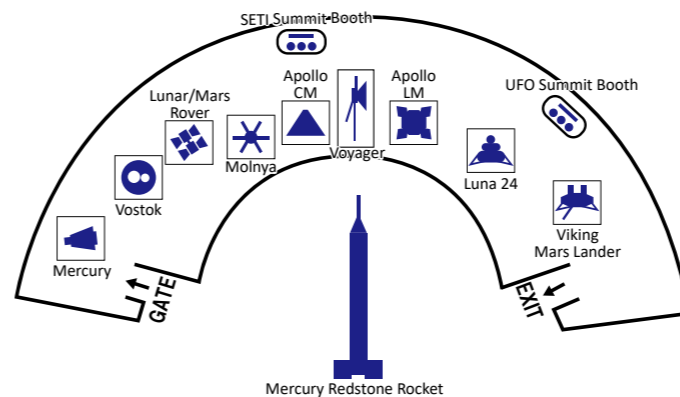


本物の迫力を味わおう

宇宙科学展示室のご案内 Exhibition Floor Information

アメリカ合衆国とソビエト連邦の「宇宙開発競争」によって、人類は宇宙に向けて大きく歩を進めることとなりました。旧ソビエト連邦による人類初の宇宙飛行から、それを追うようにして打ち上げられたアメリカのマーキュリー宇宙船、月を舞台にしたルナ計画とアポロ計画、そして火星探査。それらの歴史を、本物の宇宙機材を見ながら追っていきましょう。

そして「SETIブース」と「UFOsブース」では、地球外知的生命体についてさまざまな研究をおこなっている専門家たちが、その謎を紐解いていきます。



マーキュリー・レッドストーン・ロケット (アメリカ)

屋外に展示されている「レッドストーン・ロケット」は、NASAから入手した本物の機体です。胴体部分にはマグネシウム合金が使われており、屋外に長期間に設置してあるにも関わらず、ほとんど錆びがありません。もともとは弾道ミサイルとして作られたため、宇宙船に地球を周回させるほどの性能は無く、「マーキュリー」の打ち上げでは15分程度の弾道飛行のみを行いました。

月面車 (アメリカ)

アポロ計画で月面を広範囲で調査するため、アポロ15号以降、月面車が採用されることになりました。運転には、手元のT字型のコントローラーを使用します。前に倒すと前進し、左右に倒すと曲がり、後ろに倒すとブレーキがかかる仕組みになっています。

マーキュリー宇宙船 (アメリカ)

アメリカ初の有人宇宙船です。内部はかなり窮屈で、1名がやっと乗り込める広さしかありません。この円錐の形は、打ち上げの空気抵抗が最も小さく、帰還の際は底部から降りることで減速しやすいため、NASAが有人宇宙船として最も効率が良い形であると考えていました。

ヴォストーク宇宙船 (旧ソビエト)

ここに展示されているヴォストークは、実際に飛行し、宇宙から帰還した本物の機体です。大気圏への再突入の際の熱によって焼け焦げた跡が残っています。着陸時の衝撃から逃れるため、高度6千メートル上空で飛行士が飛び出し、パラシュートで地上に帰還する方法をとっていました。

ルナ・マーズローバー (アメリカ)

このローバーはNASAが火星や月面の走行を想定してグラマン社に製作させた実験用プロトタイプ車で、実用段階に至るまで何度も実験がなされた本物の機体です。NASAの特別協力によってジョンソン宇宙センターより羽咋市に恒久貸与されています。

RL-10 ロケットエンジン (アメリカ)



アメリカが開発した初の液体水素型ロケットエンジンが、この「RL-10」です。アトラスロケットや、タイタンロケットの2段目に使用され、様々な宇宙機を宇宙空間に送り込みました。

ここに展示されているのは、NASAが実験用に使用していた本物の機材です。

モルニア通信衛星 (旧ソビエト)



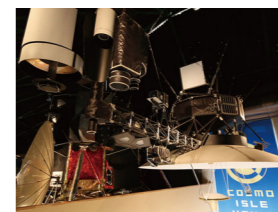
ここに展示してある通信衛星モルニアは、旧ソ連がバックアップ機として製作した本物の機体です。「モルニア軌道」と呼ばれる特殊な軌道を飛行し、最大の特徴である胴体の大型ジャイロによって安定飛行を保っています。中心部には偵察用のカメラが取り付けられています。

アポロ司令船 (アメリカ)



この司令船は、外壁やスイッチ類など、実際に使用されたものと同一の部品・素材を用いて組み上げたものです。地球から月まで往復1週間程度かかるため、その間、3名の宇宙飛行士はこの中で生活を共にすることになります。

ボイジャー惑星探査機 (アメリカ)



地球から最も遠い人工物、それが「ボイジャー惑星探査機」です。木星、土星、天王星、海王星を探査し、現在は太陽系のさらに外に向かって飛び続けています。

ボイジャーの上部側面部分には、地球外知的生命体に向けたメッセージレコードが収納されています。

アポロ月面着陸船 (アメリカ)



このアポロ月面着陸船は、アポロ17号をモデルに組み上げられた実物大模型です。表面の赤、金、銀のシート（サーマルブランケット）は本物と同じ素材を使用しています。これによって、宇宙船本体は直射日光などの影響をうけず、内部の温度を一定に保つことができます。

ルナ24号 (旧ソビエト)



旧ソビエトのルナ計画では24機の探査機が月に向けて打ち上げられ、月の石を地球に持ち帰ることに成功しています。

ここに展示されているルナ24号は本物のバックアップ機です。完全な形で地球に残っている「ルナ」は、これが最後の1機とされています。

バイキング火星探査機 (アメリカ)



バイキングが火星に送り込まれる以前、火星の表面に川が流れた跡が発見されたことから、火星に水が存在し、生命も存在する可能性があると考えられていました。バイキングは、火星の土の中に微生物が存在するのかどうかを調査する能力があり、地球外生命体の発見が期待されました。

ロズウェル事件の宇宙人



1947年、アメリカの「ロズウェル」に空飛ぶ円盤が墜落した事件があったと言われています。この模型は、その時に撮影されたとされる宇宙人の映像をもとに、テレビ局が作成したものです。宇宙人には指が6本あることや、脳が人間よりも大きいことが分かります。